

## スタッフルーム

## 私のデビューの方が早いんです

まつだ さとこ  
松田 聖子

(薬学メディアセンター)

ご退官間近の河井弘志(かわいひろし)先生は仰った。「マツダセイコさんという学生さんがいましてねえ、でもヨミはサトコさんなんですよ。出席をとった時に訂正されてびっくりしました。人の名前は読み方が色々ありますから、きちんと確認しないといけないなあと思いました。皆さんも著者名には気を付けてくださいネ」。

…って講義で取り上げられてたよサトコちゃん、と司書課程仲間が教えてくれた。幸い私自身は履修済みだった。

大抵の人に戸惑われるが、私はこの名前と生まれた時から付き合っている。(姓の変更期間は少々ございます。)[聖]という字を使うことを先に決め、漢和辞典をひいた両親が何となく、「セイコじゃなくてサトコにしよう」と思った。すんでのところで最悪の事態は回避された。この世にリリースされたばかりの私は、予知能力も「表記を変えてください」と言う力もなく、新生児黄疸で保育器の中で寝ていた。その2年後に某アイドルが1枚目のレコードを発売して猫も杓子も聖子ちゃんカット、赤いスイートピーに青い珊瑚礁、私は物心つく前から自分の名前に悩まされることとなる。

子供の頃は嫌で嫌で仕方がなかった。笑われてムキになり、怒ったり泣いたり殴ったり。思い余って自分で自分に名前をつけて名乗っていた時期もあった。しかしさすがにもう慣れた。年齢を重ねるって素晴らしい。そして、人の名前はなるべく正確に覚えて、表記と発音に気を付けようとする癖がついたのは、からかわれた経験のおかげであることは紛れもない。

私は2007年の春、国立薬科大学図書館に派遣職員として着任するまでも、大学図書館ばかりを転々としてきた。最近では目録作業から遠のき、請求記号を付与する程度だが、やはり思考を脱線させられるのは責任表示だ。珍しい名字…お国は？歴代の愛称は？旧姓との組み合わせは？兄弟姉妹でお揃いシリーズ？他に挙げられた候補は？漢字を訳かれた時の説明の仕方は？何で変換してます？私はもちろんマツダセイコです。頭の中で著者を質問攻めにするが、その回

答は帯にも奥付にも載っていない。

現実世界で会った生身の人ならば、ご本人が目の前にいらっしゃるので嬉しい。しかし会う人会う人に尋ねるのはどうかと思い、最近は控えるようにしている。皆さん、私に訊かれなくとも話してくださると助かります。私の反応は概ねこうだ。「あー、前から気になってたんですよー！○○だと思ってたんですよ！」。

中でも特に詳らかに伺いたいのは、やはり下の名前の由来だ。すんなり読める、特に目立つ名前ではなくとも、必ずそこには物語がある。「○○な人になって欲しいって」「画数が最高で」「おばあちゃんから一字もらって」…多かれ少なかれ、親御さんが知恵を絞ったであろういきさつが興味深い。そっくり同じ名前の人がいたとしても、由来までは同じではないはずだ。ビューティフル・ネーム。

ところで私は、子供に遭遇した大人が一様に「お名前は？いくつ？」と尋ねることに少々不満がある。お名前は？お名前は？幼い私も繰り返し返事を強要されているうちに、ついに「おまえは？」と言うようになってしまって焦ったと聞かされた。そういうおまえは誰なんだよという意味ではなく、口が回らなくて「オナマエハ？」と発音出来なかったからであるが、示唆的で我ながら気に入っているエピソードである。「お名前は？…ふーん、良い名前だね。私は聖子だよ」。せめてこうしたい。こうしようではありませんか。

この原稿のオチをどうしようかなと考えていたある日、常連さんではない学生さんに「松田さん」と声を掛けられてぼかんとしてしまった。なぜ？4月のガイダンスで覚えました、と言われて感激した。そもそもパワポの表紙からちゃんと見てくれるような真面目な人だということだけれど、やはり名前の効果は否めない。たまにある、珍名で得をした出来事だった。お父さんお母さんありがとう。結局こうなる。あっ、某アイドルもありがとう。

